

素材

文字と運ぶ

記録の素材と複製

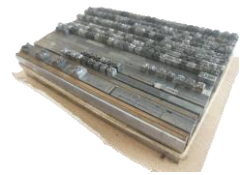


素材	資料（「資料名」資料群名）	年月日	資料群番号・資料番号
紙	和紙の資料 和紙は楮や雁皮、三稜などの繊維を原料として作られた紙で、保存性に優れています。「劔大明神秋明抄注文」は、500年以上前に作成された、文書館にある最も古い和紙の資料です。「劔大明神秋明抄注文」（山内秋郎家文書（当館蔵））	1497年 （明応6）	X0142-00034
	酸性紙から中性紙へ 酸性紙とは、インクのにじみ止め（サイズ剤）を定着させるため、硫酸アルミニウムを添加した洋紙のことです。硫酸アルミニウムは紙や大気中の水分と反応し、紙を構成する繊維を徐々に傷つけていきます。そこで、紙の傷みの対応策として、インクのにじみ止め防止に炭酸カルシウムなどの中性のサイズ剤を使った「中性紙」が開発されました。「（水稲栽培試験成績、雑草防除、水稲新品種育成）」関東東山農業試験場「地域標準技術体系養蚕」農林水産技術会議事務局	1958年 （昭和33）	40006328
	中性紙	1969年 （昭和44）	40002818
木 杉材	池田八幡宮社の棟札 棟札とは、建築物の造営や修復の際に、その建物の由緒や建築関係者、建築年月日などを墨書した木製の札のことです。資料「覚」は、池田町八幡宮社を、1739年に修復した時の棟札（杉材）です。「覚（八幡宮社建立仕二付棟札）」（飯田忠光家文書（当館蔵））	1739年 （元文4）	G0013-00781
金属	旧松原天草町から出土した迷子札 迷子札とは、迷子になっても身元がわかるように幼い子どもに持たせていた、住所氏名などが書かれた札のことです。資料は旧松原天草町から出土した金属製の迷子札で、片面に住所と親子の名前、「天草町 柳下勘七 久之丞」の文字が彫られています。（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター提供）	18世紀後半～19世紀	—
布	布に記された漢詩 漢詩人で政治家であった結城琢（蓄堂）が、福井県出身の政治家で、当時衆議院議長であった杉田定一に贈った布に記された漢詩です。これを詠んだ日が天長節（天皇の誕生日）の前日ということで、天皇を敬慕する内容となっています。「漢詩」（池内啓収集（杉田家日蔵）文書（当館蔵））	1908年 （明治41）	A0174
鉛筆	初期の鉛筆で書かれた書簡 1872年（明治5）4月3日付の、足羽県参事村田氏寿と権参事千本久信から、東京松平家事務所の家扶3名に宛てた、当時では珍しい、西洋紙の両面に鉛筆で書かれた書簡です。「（粟崎両家献金一件、大蔵省官員巡回、県庁板敷き、椅子・高案・ガラス障子、洋装導入等書簡、村田氏寿副呈）」松平文庫（福井県図書館保管）	1872年 （明治5）	A0143-00863

複製

文字と運ぶ

記録の素材と複製



複製	資料（「資料名」資料群名）	年月日	資料群番号・資料番号
写本	『平家物語』の写本 写本とは、手書きで複製された本や文書のことです。木版印刷や活版印刷術が普及する以前、書物は多く写本によって広まりました。この『平家物語』は挿し絵もかき写されています。『平家物語 巻第七』（写本）（桜井市兵衛家文書（当館蔵））	1677年 （延宝5）	N0055-00785
木版	木版と木版画 木版とは、木の板に文字や絵を彫りつけて作った印刷用の版のことです。江戸時代に書物が民衆に広まるとともに木版印刷が普及しました。資料は、御煎茶のチラシの木版と、木版で刷られた京都御所周辺の屋敷絵図です。「木版、木版画」（福井県立歴史博物館蔵）「（京都御所周辺屋敷絵図）」矢尾真雄家文書（当館蔵）	年未詳	C0065-00700
ガラス乾板	ガラス乾板と現像写真 ガラス乾板は写真乳剤を無色透明のガラス板に塗布したものです。カメラにセットして撮影した後、乾板をもとに写真に焼き付けました。資料は、論社社の「涅槃講式残簡」のガラス乾板と現像された写真です。「（涅槃講式残簡写真）」山内秋郎家文書（当館蔵）「（ガラス文書）」山内秋郎家文書（当館蔵）	年未詳	X0142-01547 X0142-00859
青焼き	青焼きの設計図 ジアゾ化合物を塗布した用紙を感光させ、湿式の現像液を使うものが、ジアゾコピーといわれる「青焼き」で、白地に青で線や文字が謄写（とうしゃ）されます。資料は1933年（昭和8）の陸軍特別大演習の記念事業として発案された福井市役所建築の際の設計図です。「福井市庁舎及公会堂設計図東面図」辻岡通文書（当館蔵）	1933年 （昭和8）	A0199-00001
謄写版（ガリ版）	謄写版（ガリ版）で印刷した作文 謄写版は、蠟紙（ろうがみ）を金属製のヤスリの上に置いて、鉄筆で文字などを書いて蠟を掻き落とし、それを布を張った枠に張り、その上にインクをつけたローラーを転がし、蠟を落とした部分からインクをにじみ出させて印刷します。資料はヤスリと鉄筆と蠟紙、謄写版で印刷した小学生の作文です。資料は「ヤスリ、鉄筆、蠟紙」福井県立歴史博物館蔵「わらべ 第1号（小学校6年生綴方）」増田公輔家文書（当館蔵）	年未詳	J0116-00210
活字と活版	活字とハガキの活版 活字とは、活版印刷に用いられる柱状の字型のことです。頂面に1字ずつ凸状に文字を刻んであります。これを組み並べて活版を作って印刷します。資料は鉛合金の活字で組んだハガキの活版です。「ハガキの活版」相和印刷提供	2001年 （平成13）	—